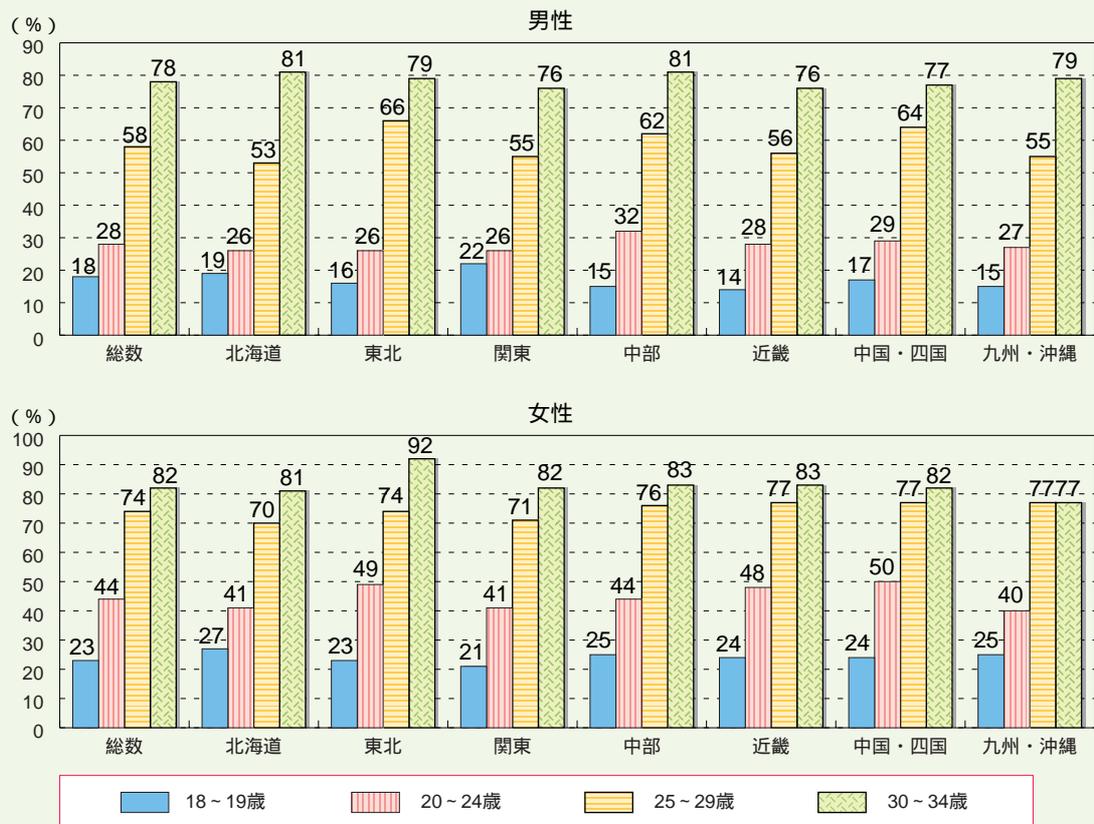


図表2-3-6 ▶

(未婚化・晩婚化は、地域による結婚意欲の違いも起因している)

このように、未婚化、晩婚化は全国的に広がっているが、その背景にある若者の意識は地域別にどのような違いがあるのだろうか。国立社会保障・人口問題研究所が「出生動向基本調査」を地域ブロック別に集計した結果^(注)を見ると、「すぐに結婚したい」と思っている未婚者の割合は、25～29歳の男性では東北、中部、中国・四国で高く、20～24歳の女性では東北、近畿、中国・四国で高く、若年期における結婚意欲が高い地域の方が未婚化、晩婚化が進んでいないのではないかと考えられる。

図表2-3-6 地域ブロック別にみた各年齢層の結婚意欲を持つ未婚者の割合



(注) 国立社会保障・人口問題研究所が第9～12回の出生動向基本調査(独身者調査)の各調査時の18～34歳の未婚者について集計したもの。
「1年以内に結婚したい」、または「理想の相手が見つければ結婚してもよい」と回答した者の割合を示している。

(注) 平成16年度厚生労働科学研究費補助金「少子化の新局面と家族・労働政策の対応に関する研究」における分析結果。

(九州、東北で高い夫婦の出生力)

近年の出生率の低下は、未婚化、晩婚化といった結婚行動のほかに、結婚した夫婦であっても生む子どもの数が減っているという出生行動の変化が見られると分析されている(注1)。

ここでは、地域によって夫婦の出生行動にどのような違いあるのかを見た。

まず、出生数を有配偶女性の数で除した有配偶出生率を都道府県別に見ると、佐賀県や沖縄県などの九州が高く、北海道が低いことがわかる(注2)。

◀ 図表2-3-7

図表2-3-7 都道府県別の有配偶出生率(2000年)



資料：厚生労働省大臣官房統計情報部「平成13年度人口動態統計特殊報告(出生に関する統計)」
 (注) 有配偶出生率が低い順に左から並べている。

(注1) 国立社会保障・人口問題研究所が2002(平成14)年1月に行った「日本の将来推計人口」中の分析において、1960年代前半生まれの世代で結婚した夫婦の平均出生児数に低下傾向が見られるとされている。
 (注2) 東京都や神奈川県などの南関東は25~29歳の有配偶出生率は低いですが、30~34歳では全国平均以上になっている。これは、この地域が晩婚化が進み、結婚後間もない30~34歳の者が多いことによるものであり、この指標を見る上では、こうした要素を考慮する必要がある。